

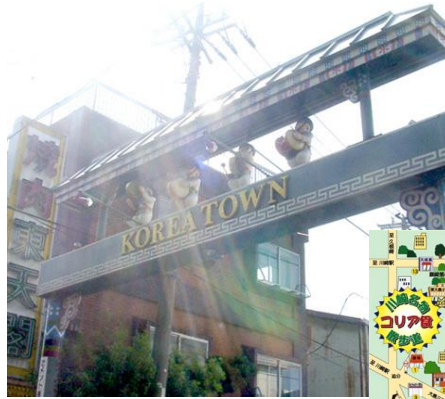
かわさき区の宝物シート

宝物No.	こりあタウン
20-4	コリアタウン

エリア	田島地区	シーズン	通年
	桜本・浜町	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input checked="" type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input checked="" type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



資料提供：川崎焼肉料飲業者の会

所在地	セメント通り（川崎区浜町3～4丁目） 周辺一帯
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より臨港バス「四ツ角」下車 徒歩3分



基礎情報

■大島四ツ角より産業道路までの通称セメント通りを中心とする浜町・桜本の一帯を通称「コリアタウン」という。大正から戦時中にかけて朝鮮半島から川崎に移り住んだ人々が多く居住し発展してきた地域である。現在では“多文化共生”の街として、焼肉などの食文化を中心に日韓友好の架け橋になっている。焼肉屋の他にも香辛料などの韓国の食材を直輸入販売している店もあり、手頃な価格で本場の焼肉や韓国料理を味わえる店が建ち並んでいる。

由来・エピソード

■かつて産業が潤っていた頃、セメント通りに軒を連ねた100軒ほどの店が、現在の川崎の焼き肉屋街のはじまりである。ホルモンなどの内臓肉は朝鮮半島の食肉文化で、安くて栄養があり労働者にとって貴重なエネルギー源として親しまれていた。産業の発展とともに多くの人々が暮らした川崎区は、工場のオートメーション化や企業移転等によって昭和48年(1973)をピークに、以降の30年間で10万人もの人口が減少したといわれる。栄養もあって美味しい焼き肉文化を伝え、それを起爆剤として街の活性化を図りたいと考えた地元商店主たちによって、平成4年(1992)に「コリアタウン実現を目指す川崎焼肉料飲業者の会」が発足し、現在のコリアタウンの形となった。

■「かわさきアジア・フェスタ」は毎年4月中旬に開催される。川崎駅周辺の各所をイベント会場として、アジア系食品・雑貨等のワゴン販売や屋台村、アジア物産展、中国・韓国、沖縄等アジア系の飲食店、衣料・雑貨等の物販店などが軒を連ね、毎年多くの人出で賑わっている。このかわさきアジア・フェスタに連動して、コリアタウンとその周辺の焼肉店では「コリアタウン焼き肉フェスタ」が開催されている。同期間中には焼肉店で全品30～50%オフ（金券バックも含む）やドリンクサービスを敢行し、食肉食材店では独自の「お値打ち特売セール」（キムチや韓国ノリなどのセール）が行われ、盛況を呈している。

補足・その他

--

関連シート

(20-1)桜本商店街日本のまつり
(20-2)川崎市ふれあい館
(20-5)韓国朝鮮料理